



第72回 新聞週間 第27回 日本専門新聞

写真コンクール

文部科学大臣賞など 入選作品20点決まる

審査委員長講評



関口 照生氏
日本写真家協会会員
倉敷芸術科学大学客員教授

未だ産毛だらけの二羽のフクロウが体を寄せ合っている姿がなんとも可愛い、自然の生態を一瞬でとらえた傑作です。

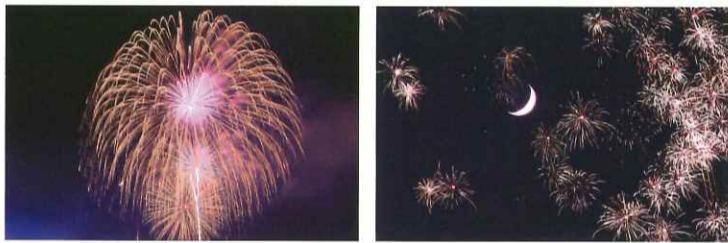
2019年度、第27回日本専門新聞写真コンクールの作品募集は、例年通り協会の皆様、各加盟社の協力により一般、読者、加盟社の皆様の作品が数多く寄せられ、総数526点になりました。審査は関口照生、林義勝共に日本写真家協会会員の両名で行いました。最優秀賞、文部科学大臣賞には一般公募の南百瀬勇氏の「光の舞」が選ばれました。初夏、小川の清流に舞うホタルを様々な光のラインとしてとらえた作品。

「ホッポーホタル来い」の頃は興きは違いますが、背景の滝とわずかに見える夕空が、シニールな光のラインを現実に戻し戻してくれそうです。理事長賞は一般公募の川口勉氏の「夜空の共演」三枚の組写真です。近年花火がコンテンツポラリィな色彩やパターンになり夜空を彩っています。その様子を三枚の組写真で構成し、夏の夜の一刻の感動をよく表現しています。

審査委員長賞は、一般公募の浅沼裕之氏の「巣立ちフクロウお眠兄弟」です。



公益社団法人日本専門新聞協会は第72回新聞週間を迎えるにあたり、アマチュア写真愛好家および加盟各社の写真・読者を対象に「第27回日本専門新聞写真コンクール」の作品を募集していたが、審査委員会、理事会でそれぞれの入選作品が決定。受賞者は10月18日の日本専門新聞大会フェスティバルにおいて表彰される。



理事長賞

夜空の共演

川口 勉 / 一般応募

この度は栄誉ある賞をいただきまして感謝致します。月のある風景を撮り続けていますが、夏の夜空を彩る花火とのコラボも面白いと思い、三日月と一緒に撮れるような花火大会を調べて撮影に赴きました。最初は月と打ち上げ花火の全景を画面に収めていましたが、月と花火が重なる様子をアップで撮ってみると、火花が線香花火のように写るといった発見もありました。これからも写真でしか表現出来ない世界を捉えていきたいと思ひます。



文部科学大臣賞

光の舞

南百瀬 勇 / 一般応募

この度は「文部科学大臣賞」という過大な評価をいただき、大変うれしく光栄に思っています。

長野県辰野町の松尾峡・ほたる童謡公園の一角にある用水の滝を行き交うゲンジボタルです。この作品は、近くを走る車のライトが滝の岩と脇に咲く花をあぶりだす瞬間をとらえて私なりに表現した一枚です。

日々公園の整備をされている方々の努力と自然に感謝をしつつ、この賞を励みに今後も美しい風景を撮っていきたいと思ひます。



審査委員長賞

巣立ちフクロウお眠兄弟

浅沼裕之 / 不動産経済研究所(読者)

この度は名誉ある賞をいただきまして、まことにありがとうございます。近年進んでいる自然破壊に伴いフクロウが営巣する洞のある大木が減っており、写真の兄弟は実は巣箱で育ったものです。今後自然の保全が進み、このような朗らかな光景が多く見られる事を願いシャッターを切りました。土日の度に撮影に出かける私に笑顔で送り出してくれる妻に感謝すると共に、今後もネイチャーフォトに精進していききたいと思ひます。

